

長浜市森林ディレクション審議会（平成27年度第1回）要点録

【日時】 : 平成27年6月10日（水）9:30～11:50

【場所】 : 長浜市役所 東館2階 2-A会議室

【出席委員】 委員9人（敬称略）

特定非営利活動法人妙理の里 片山 由文

内保製材株式会社 川瀬 文明

長浜市伊香森林組合 高橋 市衛

滋賀県立大学環境科学部環境政策・計画学科 高橋 卓也

公募市民 藤井 克博

滋賀県猟友会北部有害鳥獣捕獲組合 藤田 和司

伊香具山友会 横関 隆幸

長浜市森づくりクラブ 横田 光代

滋賀県湖北森林整備事務所 南井 隆

市 5人

森林整備課 北川理事（事務局）

森林整備課 永井副参事（事務局）

森林整備課 星野主幹（事務局）

森林整備課 花澤主幹（事務局）

北部振興局産業振興課 大澤課長

【議事録】

事務局：長浜市森林ディレクション審議会規則の規定に基づく会議成立の報告

長浜市の附属機関の会議等の公開に関する要綱に基づく公開について説明
のち、傍聴者数0人の報告

事務局：審議の前に北川理事より、ごあいさつ申しあげます。

北川理事あいさつ

事務局：審議会規則第6条第2項に基づき、会長による議事進行依頼

会長：本日は、朝からご参集いただきありがとうございます。

さて、私が勤務する県立大学にも計画は存在します。学生数であるとか、論文執筆
数などが指標となります。計画を実行するのはしんどいものです。しかし、計画が

あると、仕事の漏れがなくなり、組織全体としての目標が定まって事業が推進されるといった利点も多くあります。今回計画を作成するにあたっては、計画のための計画ではなく、市の森林の方向性に真に役立つ形となるよう進めていきたいと考えています。それでは、次第に基づき事務局から説明をお願いします。

事務局：資料1「長浜市森づくり計画アクションプランの取組状況について」

資料2「平成26年度長浜市森づくり計画アクションプラン 事業概要」

資料3「長浜市森づくり計画アクションプラン進捗状況調査票」に基づき説明。

会長：それでは、みなさんからご意見をお願いします。

委員：未実施の事業について、教育関係が3つあります。こうした分野は、外から労力をつぎこまないと進まないものです。外部の団体と連携してやると、先生方の負担も減り、前に進む例がある。もちろん、先生の理解を得て進めていただくことが理想ではありますが、事務局で打開策として何か考えていることはありますか。

事務局：課題は認識しています。例えば、横田委員さんの団体は、小学生を指導されておられますが、教育委員会としては、カリキュラムが多岐にわたってきているため、市内の学校に統一して組み込んで取り組んでもらうことは難しい現状があります。校風、地域柄として、取り組んでいただいているところはありますが、実施は各学校にゆだねられているのが実情です。

委員：プランとしては、現実的（達成できるもの）にしたほうがよいと思います。

委員：学習の部分は前向きに考えるべきだと思います。教える人を育てるところから必要になるのではないかと思います。時間はかかりますが、教える側も成長することができます。岐阜県にある事業所の例ですが、「ぼくらと森のかけはしプロジェクト」という取り組みがあり、森や木とふれあうだけでなく、そこからお金につながるまで、子どもたちに教えているそうです。お箸を作って、地元のサッカー団体に売りに行くといったことを通して、木を使うこと、お金になることまでを学ばせている先進例です。

委員：私もこの会議に参加して、長浜市内にも横山はらっぱ倶楽部のほか、いろいろな森づくり団体があるのを知りました。そうした団体に集まっていただき、子どもたちに対して出来ること、協力いただけることを聞き取り、それを学校と結び付けていく取り組みも良いのではないかと思います。団体との横のつながりが必要となっていて、それを機能させることが有効ではないかと思います。

委員：やまのこ事業は、県内ほとんどで実施されていますが、県の事業との関連性がわかりにくいので追加で説明をお願いしたいと思います。

事務局：現行計画では、全学年共通のプログラム開発の実施がプランになっています。これ

は、4年生で行うやまのこ事業のステップアップとして5、6年生にも学習してもらい、低学年時にも事前学習をしてもらう、といったことを想定しています。しかしながら、ゆとり教育の見直しから学習時間を確保していく必要性があり、教育現場サイドとしては時間が無く、実施してもらうのが難しいのが実情です。

委員：私が活動する里山は、小学校から15分程度の所にあり、2時間年4回、子どもたちと一緒に山の中で学んでいます。ただ、市内を見渡すと、近くに森がない学校もあり、森から遠いと移動のバスも必要となります。事業への支援がないとなかなか実施が難しい学校もあるのではないかと思います。

会長：他にもいろいろあろうかと思いますが、引き続き、議事の2番目、長浜市森づくり計画アクションプランの策定について事務局から説明をお願いします。

事務局：資料4「長浜市森づくり計画アクションプランの策定について」

資料5「長浜市森づくり計画アクションプランの事業評価について」に基づき説明。

会長：委員のみなさんは、手続き論よりも具体的な中身に興味をお持ちかと思います。アウトプット、アウトカムという用語は、行政、民間企業では使われるのかもしれませんが、一般には耳慣れないものなので、具体例を出してもらったほうが良いと思います。アウトプットは手段、アウトカムは手段により達成する目的というイメージになると思います。いずれしましても、具体的に示してもらったほうが分かりやすいと思います。

事務局：資料6「森づくりの目指す方向性について」により具体的事例を説明。

会長：項目を一つひとつ検証していても良いと思いますが、皆さんの興味も様々かと思えます。ここでは、自由にご意見をいただきたく思えます。

委員：森林の活用においては、事業者さんが、採算がとれるような項目を絞って、そこから具体的なものにしていただきたいと思います。儲からないと山に人は入っていないかと思えますし、そういう魅力をどう作っていくのかを考えていく必要があると思えます。

委員：「市民が参画する森林づくり」の項の目指す姿にある「笑い声が聞こえる里山林…」の意味ですが、これはレクリエーション活動を指しているのでしょうか

事務局：女性や子どもをはじめ、多種多様な方々が山に入られ、活気があふれている状況をイメージしています。

委員：「森林の大切さの啓発と魅力の発信」の項にある「フェスタ開催」ですが、県との共催が終わった後も、市独自で開催していくということですか。

事務局：平成24、25年度と、他のイベントと同時開催ですが、市独自で開催した実績が

あり、県との共催が終わった後も、引き続き開催していきたいと考えています。

会長 : 今日、こういうアウトカム、アウトプットがあったほうがいい、という意見をいっぱい出していただく方向でお願いしたいと思います。

ここで一旦休憩します。

(休憩)

委員 : 「森林の大切さの啓発と魅力の発信」の項にある「木製品」ですが、どういったものを想定されているのですか。

事務局 : 主に家具です。今は皆無なのですが、家具屋で取り扱っていただく数を増やすことを想定しています。

委員 : 材積数ですが、原木か製品、どちらの数値ですか。

事務局 : 原木による数値ですが、販売個数、販売店数等の指標でも良いかもしれません。

会長 : 紙の原料としての指標もいかがかと思う。湖東に「KIKITO」さんの例がある。身近のものに幅を広げてはどうかと思いますが、ご参考までに。

委員 : 「森林資源の利用拡大」の項の「住宅戸数、公共施設数」であるが、ストックヤードの数を入れてはどうでしょうか。

委員 : 素材生産量、素材生産性の指標の達成のために、どんなことが必要でしょうか。

委員 : 素材生産量は、毎年増やしてきていて、5,000m³/年の実績があり、問題はないと思います。素材生産性については、県域で流通先を広げている方向性があるなど、色々な要素があることから、一概に言えないのが現状です。

会長 : 「効率的な木材生産」の項にある説明会の開催数、集約化団地数は5年間の数でしょうか。

事務局 : 5年間の数です。なお、高性能林業機械は計画数として10台と設定していますが、管内の森林組合が保有する台数が現アクションプランをクリアしつつある状況です。

委員 : ペレットについてですが、滋賀県内では工場が多賀に1か所あるのみです。薪は薪市場ができて浸透しつつありますが、薪、ペレットともに供給体制が存在していない状況です。この冬はペレットの問い合わせが多くありましたが、利用者の間で、どこでペレットが買えるか知られていません。買うにしても、近くに工場が無く、物流体制も無いことから、コストが高くなります。工場ができれば良いですが、間伐材を出す際に採算が出ないので進まないというのが現状です。

委員 : 「多様な森林づくり」、「次代の森林を支える人づくり」両方の項に「自伐林家」があがっている点、松くい虫にかかる指標が原案からなくなっている点については

いかがですか。

事務局：指標としては、複数の項目に重複して掲げることもあり得ると考えています。

松くい虫についての指標は、入れ込んでいくようにします。

委員：松枯れについてですが、樹幹注入にあたって有効期間7年の薬剤、被害の初期段階から使用できる薬剤など、対処技術も進んできています。

委員：「森林資源の利用拡大」のアウトカム指標における素材生産量15,000m³の内訳はどういったものですか。

事務局：生産量の中には、A材、B材、C材を含んでいます。長浜市内の約半数がC材。続いてB、A材の順となっています。アウトプット指標にある市産材を利用した住宅戸数50戸は、年10戸×5年間による積算です。今年度は昨年度に比べ申請件数が増えていますので、目標を上げて良いのかと思います。

委員：指標それぞれの期間はこういった単位でしょうか。

事務局：アウトカムは年間、アウトプットは5年もしくは8年

委員：期間は統一したほうが分かりやすいのではないかと思います。

事務局：統一していきます。

委員：「効率的な木材生産」の項の目指す姿にある「所得」ですが、誰の所得を指しているのでしょうか。

事務局：それぞれ、事業体（組合）、個人（林家）ですが、わかりやすく標記することとします。

会長：資料4にある、アクションプラン上の項目の見直し案について、みなさまからご意見はありませんか。

委員：「自治会への役員照会事業」ですが、なくしてしまうのではなく、北部管内だけでも、森林整備課独自で進めてはどうかと思います。

委員：「産直住宅グループの活動推進」ですが、現在実質的な活動はないですが、将来的には別の位置づけが出てくる可能性もあるので、残してはどうかと思います。

委員：地球規模で見ると、長期的な温暖化という問題があります。日本全体の森林減少傾向もはっきりしている状況下でこうした点もふまえた計画づくりをお願いしたいと思います。

委員：木を資源としてどう活用したら儲かるかを基本において考えるべきだと思います。流通、生産、製品化のコストといった問題をクリアし、儲かるしくみを作ることを含めた議論がしていきたいと考えています。

委員：森にふれあってもらいたい、山に入っていただきたいという反面、シカが持つ悪性

ウィルス、蛭など、十分注意しないと人に害を及ぼす要素もたくさんあります。
安易に山に入らず、きちんとした服装、装備を心がけるように注意喚起してもらいたいと思います。

委員 : 産業として成り立たせるべきという意見にあわせ、関連業界も育成していく方向も打ち出されてはどうかと思います。

事務局より今後の策定スケジュールについて説明

・次回の開催日 8月5日(水) 9:30~12:00

会場 内保製材社屋(内保町)にて

11時50分終了